



125号 2006.12

図書館だより

中央図書館 川口 1-1-1	(227)7611	前川図書館 前川 1-3-18	(268)1616
新郷図書館 東本郷 1688	(283)1265	横曽根図書館 仲町 10-16	(256)1005
戸塚図書館 戸塚東 3-7-1	(297)3098	芝北文庫 [芝北公民館内]	(227)7611

URL <http://www.kawaguchi-lib.jp/>

新中央図書館オープン!

2006年7月1日、川口駅東口前に、新中央図書館がオープンしました。

4ヶ月が経とうとする現在も、毎日、新しい利用者の方々も増え、一日平均、約3,000人以上の利用者の方々が来館し、一日約3,700冊の資料の貸出が行われております。(平成18年10月現在)

また、新しい中央図書館の特色としては、**バリアフリー**(エバーグリーンデザイン)が意識された設計の施設であり、本がとりやすい**低い書架**、**音声パソコン**、**対面朗読室**、**点字ブロック**の設置、**車椅子の方がすれ違えるように書架と書架の間の広い通路**、**多目的トイレ**、**赤ちゃんのための授乳室**など使いやすさを追求しました。



自分で貸出ができる**自動貸出機**、30万冊の資料が保存できる**自動機械書庫**、**ティーンズコーナー**(中高生向けの本を集めたコーナー)

読書用の席・持ち込みのパソコンが使用できる席(あわせて約480席)、**グループ学習室**、**インターネットの閲覧**(インターネット用5,6階、計14台:無料)、**CD-ROMの閲覧**(現在準備中)、**マイクロフィルム**(過去の新聞等)の閲覧、**飲食をされる方のためにラウンジ**(7階メディアセブン内)など、新しい工夫が施されています。



開館時間も、平日は午前10時から午後9時まで、土日祝祭日は、午前9時から午後6時まで。休館日は、毎月第3金曜日、年末年始、**図書特別整理期間**と、多くの方に仕事帰りにも寄って頂けるように、より長い時間、開館しております。

今後も蔵書の種類や点数も増やし、サービスをご提供し、利用者の方々のニーズに答えられるよう、日々努力を続けていきます。

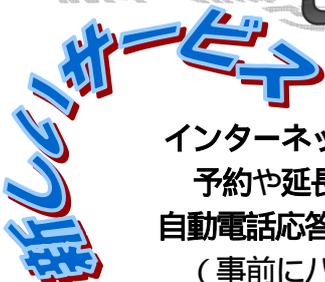
前川・新郷・横曽根・戸塚・芝北文庫・移動図書館のご利用もよろしくお願いたします。

川口市内の図書館では、
新たなサービスを開始しています。

- インターネット(パソコン・携帯電話) **館内検索機**を使つての**予約や延長処理**。(事前にパスワードが必要:各図書館で発行)
- 自動電話応答システム**:電話のみで借りている資料の確認や延長を行う。(事前にパスワードが必要:各図書館で発行)



といったものがあります。また、川口市立図書館のホームページ、館内の検索機から、『**利用者のページ**』を使って、ご自分が借りている**資料の数**や**貸し出し期限**なども見ることができます。詳しくは、図書館のホームページをご覧になるか、最寄りの図書館にお問い合わせください。



中央図書館開館記念講演会が開催されました

川口駅前に、新しく中央図書館がオープンしたことを記念して、10月23日(月)に開館記念講演会が開催されました。

「絵本が育てる子どもの心」と題して、児童文学者、松居直氏をお招きし、親子で絵本を読む時間が、どれだけ大事な意味をもつことであるか、松居先生の体験も交えて、お話していただきました。

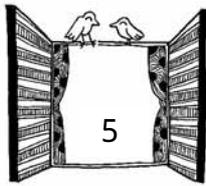


当日は小雨日和でしたが、早くから、たくさんの方が足を運んでくださり、キュポ・ラ4階フレンディアの会場が約350名の参加者で、いっぱいになりました。共催の川口あそびと読書連絡協議会のスタッフの方々の協力を得て、会場の誘導もスムーズに行われ、大きな混乱もなく講演会は進み、和やかな雰囲気の中で終了することができました。

たくさんのご参加、本当にありがとうございました。

松居直氏の主な著作

「絵本が育てる子どもの心」日本キリスト教団出版局、「びかくんめをまわす」アールアイシー出版、「ママの手催眠術みたい」女子パウロ会、「絵本の現在子どもの未来」、「絵本をみる眼」、「絵本を読む」、「絵本とは何か」日本エディタースクール出版部、「絵本のよろこび」日本放送出版協会、「絵本編集者の眼」川崎市生涯学習振興事業団かわさき市民アカデミー出版部、「絵本の力」福音館書店、「童話の王様アンデルセン」(別冊太陽)平凡社、「子どもの本・ことばといのち」、「絵本・ことばのよろこび」日本基督教団出版局、「絵本・物語るよろこび」福武書店、「わたしの絵本論」国土社、「ももたろう」、「やまのきかんしゃ」(こどものとも傑作集 9)「だいくとおにろく」(こどものとも傑作集 36)「こぶじいさま」福音館書店など



子どもの本の担当から

みなさんは図書館員の仕事というと図書館の中だけ...というイメージをお持ちかもしれませんが、ときには私たちも図書館の外に出かけて仕事することがあります。学校などで行うブックトークが、その一つです。今回は、ブックトークについてのお話をします。

ブックトークってなに？

「ブックトーク」という言葉をはじめて聞くかたもいるかもしれません。ブックトークとは【Book talk=本について話す】つまり本の紹介をすることです。1冊の本を「これ、おもしろいよ」と紹介するのも広い意味ではブックトークといえるかもしれませんが、図書館ではあるテーマのもとで、何冊かの本を紹介すること」をブックトークとよんでいます。

なぜブックトークをするの？

ブックトークは、平たく言えば「本のコマーシャル」です。「この本おもしろいから、読んでみて」と本選びに迷っている子どもたちや、本嫌いの子供たち、本の世界の楽しさを知ってもらうことが一番の目的です。図書館には外面要素の悪い本（表紙が地味、題名だけでは本の内容が想像しにくいなど）のため、良い本なのになかなか手に取られない本がたくさんあります。

このように本と子どもたちを結びつけるための働きかけがブックトークなのです。また、数冊の本を紹介することで、本には同じテーマでも色々な種類があり、知識を得るためには様々なアプローチがあることを知らせ、子どもたちの読書の範囲を広げる手助けにもなります。

たとえば・・・最近こんなブックトークをしました！

先日、戸塚図書館では神根小に伺い、3・4年生を対象にこんなブックトークをしました。

テーマ：くいしんぼうのほん

紹介した本

- ・ 『なぞなぞあそびうた』 角野 栄子 / 作 のら書店
- ・ 『みしのたくかにと』 松岡 享子 / 作 こぐま社
- ・ 『アボカド・ベイビー』 ジョン・バーニンガム / 作 ほるぷ出版
- ・ 『くいしんぼ行進曲』 大石 真 / 作 理論社
- ・ 『火ようびのごちそうはひきがえる』 ラッセル・E・エリクソン / 作 評論社
- ・ 『おさらをあらわなかったおじさん』 P・クラジラフスキー / 作 岩波書店



今回はなぞなぞで導入をはかり、子どもたちにテーマを当てて貰いました。各本の紹介は、挿絵を見せたりしながらあらすじの紹介をし「さて、この先はどうなるのでしょうか？」という問いかけを・・・子どもたちは続きを読みたいなと思ってくれたようです。

ブックトークの対象は、小中学校などの集団です。詳しくは、お近くの図書館にお問合せください。